

備萬端に關し協議を遂げ又七月三十日午後全時刻より再び同所に會合して澁澤翁への贈呈品製作の件に關し協議をなせしが天賞堂主人江澤忠君は本會々員たるの故を以て毎回特に出席を乞ひたり因に記す同製作品は來る九月中に完成の豫定なりと

●澁澤翁還曆並に叙爵祝賀會

豫期の如く七月一日には澁澤翁の還曆並に叙爵の祝賀會を高等商業學校講堂に開きぬ此日は生憎曇天にして加ふるに時々微雨を降らしたれば參會者の數定めて尠からんと思ひの外定刻をも待たで陸續として來集する者甚多く午後二時に至れば會友を合せて無慮三百數十名の出席を見るに至れり

開會の時刻は午後二時の豫定なりしかど澁澤翁には三時半頃ならでは出席なりがたしとのことに付幹事諸君は多數の來會者をして徒らに時間の空過を待たしむるも氣の毒なりとて幸ひ近頃北清戰地なる天津より歸朝せられたる會員高木鐵太郎君出席し居らるゝに付全君に支那暴動の實況談を乞はれしが君は

聽き幸に光臨せらる某等の欣び何を以てか之に過ぎん竊に惟るに國家富強の基は實業の發達に在るべきと固より多言を要せざるなり然るに我が邦古來封建の制に狃れ士大夫を貴び商賈を賤しんずるの陋習あり而して商賈も亦大抵不學無識にして僅に錙銖の利を争うて是事とし國家理財の大勢に至りては毫も之に通せざりき獨り閣下維新の際に方り衆に先んじて商業刷新の急要を觀破し時機を圖りて官を辭し躬を以て商海の指鍼と爲し拮据經營殆んど三十年に及ばんとす其間各般の新事業概ね閣下の指導誘掖に依りて成らざるなし其功績の偉大なる世既に定論あり必ずしも某等の稱揚を俟たざるなり茲に某等が特に閣下に謝せんと欲する所のものは閣下の多年我が商業教育に盡瘁せられたること是なり夫我が高等商業學校は明治八年故の子爵森君の振つて商法講習所なるものを設立したるに權輿す而して當時世人未だ斯の學の必要を感せざるのみならず動もすれば無用の長物を以て之を目したり獨り閣下此の時に際して大に

快く之を諾し義和團の性質及び現時の有様等を詳説し天津の狀態近來益々不穩人心愈々恟々たるの實況を演ぜらる午後三時半に至りて澁澤翁來會に付君は中途にして其談話を止め拍手喝采の中に壇を下れり午後三時四十分頃翁を式場に迎へいと嚴肅の中に式會の趣旨を簡短に述べ續いて左の祝詞を朗讀したり（此間に式場の模様を寫眞せり即本號會誌の口繪として掲げあり）

某等謹んで男爵澁澤君閣下に白す閣下は我商業界の先覺にして又我が商業教育の恩人なり今茲庚子齡華甲に一を加へられたるも體軀愈々健全耳目益聰明然のみならず心神精敏加ふるあつて損するなし其の壽にして健なる某等固より將に之を祝せんと欲す然るに頃者 天恩の優渥なる閣下に賜ふに男爵を以てす閣下の光榮洵に大なり是に因つて某等相議りて茲の一室に會し閣下を迎へて以て聊前數事を併せ賀せんと欲す而して閣下某等の請を

此の學の有益なることを唱導し時の所長矢野君を助けて専ら其の維持繼續の方略を計畫せられ爾來今日に至るまで學校は幾多の興廢變遷を経たるも閣下は依然として或は委員となり或は商議員となり二十餘年一日の如く斯の教育の擴張に盡力せられ又其の學生に對するや時に臨んで獎勵し事に當つて訓戒し其心情の懇篤なる慈父の其の子を視るが如きものあり而して今や某等高等商業學校の出身者は殆ど九百名に垂んとし在校の學生亦五百餘名の多きに達せり嗚呼某等が閣下の恩徳に浴すること深く且大なりと謂ふべし是某等が閣下を以て啻に商業界の先覺として尊敬するのみならず又我が商業教育の恩人として景慕する所以なり今某等閣下の還曆を賀し併せて叙爵を祝する偶然に非ざるなり謹んで茲に閣下が將來無疆の壽を保ち又益々多福ならんことを祈るの微意を表せんが爲め時計飾り一個を奉呈す物甚だ非しと雖も實に某等赤誠の存する所なり請ふ幸に其の意を諒して莞納せられ今後猶舊に依り益々我が商業界の爲

めに盡し又某等後進の誘掖に力められんことを
明治三十三年七月一日

高等商業學校同窓會會員一同

右に次ぎて水島鉄也君各地より達したる左の祝電を
朗讀したり

澁澤男ノ還曆及ヒ叙爵ヲ祝ス 同窓會大坂支部

澁澤男ノ還曆及ヒ叙爵ヲ祝ス 同窓會神戸支部

澁澤男ノ還曆ト叙爵トヲ祝ス 新潟同窓會會員

澁澤男爵ノ永壽ヲ祈ル 在長崎同窓會會員一同

澁澤男爵ノ萬歳ヲ祝ス 在富山商業學校會會員一同

謹ミテ盛會ヲ祝ス 在久留米同窓會會員

澁澤男ノ還曆及叙爵ヲ祝ス 在馬關及門司同窓會會員

澁澤男ノ還曆及叙爵ヲ祝ス 在高岡、同窓會

澁澤男ノ叙爵ト還曆ヲ祝ス 在島根會會員、橋本基一

盛會ヲ祝シ澁澤男ノ健康 在福岡會會員、有村彦九郎

ヲ祈ル 在濱松會會員、萩原英助

謹ミテ盛會ヲ祝ス 在静岡會會員、平尾徳太郎

還曆ヲ賀シ叙爵ノ御榮譽 星野太郎

ヲ祝シ先生ノ萬歳ヲ祈ル 平尾丹治

盛會ヲ祝ス 在沼津會會員、小松熊之助
最後に翁は例の得意の辯を振ひ左の答辭を述べられ
たり

男爵 澁澤 榮一君 演説

同窓會の諸君に一言御答辭を仕ります、今日は當高
等商業學校出身の同窓會諸君が私の還曆の壽に至り
ましたことと今度計らずも授爵の恩命を拜しました
ことに付て之を御祝し下さる爲に茲に祝賀會を御開
き下され、只今當席に於て總代として成瀬隆藏君か
ら懇切に且つ鄭重なる祝辭を下されましたのは私の
光榮此上もございませぬ、此御厚意に對しては只感
謝いたすと申上げる外ございませぬ、今御朗讀にな
りました文章は諸君が私に對して溢美過賞といふ譯
ではありますまいが、私は其器にあらずと申上げね
ばならぬかと恐るゝ點がございます、併し既往の經
過を御述べ下されましたことであり、其事實として
表れて居るものもございますから私は敢て此褒賞を
辭せぬやうに致して、辱く拜受いたします

同窓會記事

年を取りましても至つて丈夫で能く萬事に行渡ると
云ふ御賞め言葉でございましてが、年を取らぬ前か
ら十分なる學問もございませぬから百事に行届くと
申上げ得られませぬ、况や追々目も不自由になり、
身體の坐作も昔日より幾らか不便でございますから
世の中に盡す効能が段々減少して來ることを恐れま
す、併ながら六十一歳の今日も此世の中を御免蒙る
考へのごぞいませぬのは、此商業社會が未だ私をし
て安心して閑風月を樂ましむる時代でなからうと思
ひます、斯様に申しますと大層己れが抱負でもある
やうで如何にも赤面いたす言葉でございますけれど
も、商業社會も進むと申しながら現況如何
と考へて見ると百事皆不整頓で今や進まんとして踏
阻して居る有様は諸君も御承知である、又人性は六
十一歳ならば相當なる年輩だと言ひますけれども、
昔學問と云ふ有益なる事柄の無い時代は格別として
今日相當なる學問に支配され行くならば六十歳は愚
か八十歳までも世に効能を與へ得られぬことはない、

同窓會々誌第十一號

既に世の中に必要視せられるだけに生れた人間は學
問の助けを得て經歷が多くなる程世に効能の多いと
云ふことは言ひ得られます、故に私は尙ほ此社會に
御免を蒙らぬ次第でございます、健全を以て誇る譯
には参りませぬが、此世の中を御免蒙らぬのは商業
界に出て居る爲めばかりでなく、一身上から考へて
も安逸を貪らない爲でございます、既に年も老いて
居りますから世の中に對しての効能は昔日より下る
と云ふことは免かれませぬから諸君は宜しく御目長
に今後とも尙ほ御愛顧を蒙りたいのでございます、
老境に於ての心懸けは今申した通りでございます
第二に授爵のごぞいませぬが、之に付きましては
實に私は豫期せぬことで只恐縮千萬と心に危懼して
居るのでございます、此事柄は業に已に諸方より開
かれたる祝賀會に於ても數回申述べてございますか
ら諸君の御面前で重複は致さぬでも御耳に這入つて
居りませう、又這入らぬでも喋々する價値はないの
であります、蓋し此授爵の恩命は既に其由を解釋

して下された方々の御説の如く全く商工業の爲に經營したことが天關に達したとすれば私一身としては意外千萬であるが、商工業の爲としては私は辱ない有難いと考へねば相成らぬことである、諸君に於ても大いに喜ぶと仰しやッて下さるだらう、即ち榮一一身の爲でなく日本の商工業の爲であると云ふことになるのであります、左様に思考して見ますると自身が商工業の爲に斯る榮譽を得たと云ふのは明治初年即ち三十年以前の商工業であつても尙且此榮譽を得られたかと回想することになるが決して左様ではない、其當時の商工業の有様であつたならばさう云ふ榮譽を荷ふ譯にいかぬと云ふことは私も思ひ、諸君も必ず左様に御信じなさるに相違なからう、それ故に私が斯様な光榮を荷ふのは何に依つて來たかと云ふと、是は榮一が世の事に精勵したからと云ふ譯ではない、詰り商工業に對する學問と云ふものが三十年間の進歩で遂に此商業社會の品格を進めて行つた、其進めて行つた所の一人が幾らか其れに關係が

ぬが、サテ其商業が鞏固に發達すると云ふとは何に原因するか、詰り其人の思想が堅實にして、事に處し物に接して適當なる方法を立つるのが即ち鞏固に發達を致す手續である、之を致さしむるのは何であるか、學問の力に依らなければ決して出來ないのであります、曾て私は此高等商業學校の卒業式に申述べたことがあります、昔の商賣人は塵劫記と商賣往來の外に學問と云ふものは無かつた、御維新以後漸く商業に學問が要ると相成つたが、それにしても商賣人と云ふと何やら一級段階が降つた様な有様を以て此商賣社會を遇されたのは甚だ嘆かはい、併し此商賣人が維新以前に在つて政治家の奴隸と云ふ時代ならば左様に卑屈であらう、又左様に鄙下されても仕方がないが、今日は商賣人は決して左様な譯のものではない、資格から言つても權能から言つても國を生存し國を強うして行く原素は商業にあるのであるから即ち我々があつて國が發達して行くと言つて宜い、只恐らくは前にも申した様に昔しから下級

多かつたから遂に其事が、天關に達して私が斯る意外な榮譽を得たのである、偶然にも商業に對する學問の進みが私一身の光榮を來したと申しても宜い、故に私は此授爵の事に付ては商業に對する光榮の代表者に相成つたと解釋いたすのでございます、斯様に考へますと此商業と云ふものは未來如何であるかと云ふことを亦思ひ起さなければならぬのであります、商業に對しては學問と云ふ働きは必要が無かつたと云ふのは明治以前の夢であつて其以來進んで來た故に商業と云ふものと學問と云ふものは決して離るべからざるものだと思ふは最早定論と申しても宜い、併し今の商業に對する教育、即ち商業教育は今日の有様で満足であるかと云ふことは諸君に於て十分御研究を願ひたいのでございます、政治界學問界の人は其向きに於ての發達を求むるでございませう、軍人は成るべく武器の整備することを勉むるでございませう、是は御尤至極である、商賣人は商業が鞏固に發達することを務めなければなら

な位置に置かれた爲に自ら思想も堅實でなく、又才能も足らぬ所から自らも卑み人も卑む様に相成つたのである、是は幾回か私が此商業學校に於て申述べたのでございませう、併し左様な憂ふべき言葉は今日申さぬでも宜い、如何となれば十數年以來商業教育の必要は人も認め我也認めて共に進んだのであるが、今日の儘で此商業教育は満足であるか、商業界に於ても是で十分とするか否やと云ふことは切に諸君に於て御再思を願ひたいと思ひます、私はドウも決して是では満足でないと思ひます、商業教育の有様が追々年を逐ふに従つて進んで参り、又此商業學校から出身された同窓會の諸君も九百人にもなりて各種の事業に就きそれ等の人々が相集つて商業社會の勢力を左右することになつたのは賀すべき次第ではございませう、能く考へたならば商業と云ふものに對する教育が他の教育と同一程度に進んで居るとは未だ申されぬのでございませう、私は學問を以て成立つた人間でございませぬから學理に就てのこと

は丁寧に茲に申述べることは出来ませぬが、曾て此商業學校をして大學の位置にまで進めたいと云ふことを度々申したことがございます、其場合に或る學者連の説に此商業と云ふものはドウも大學の位置にまで進むべきものでない如何とすれば「サイアンス」には數へ入れられぬと云ふ説を爲した御方もあつた、私は之に對して否、左様でないと云ふ明解を興へることは出来ませぬが、併し之をして大學たらしむることの出来ぬと云ふことはない、爾來此商業學問をして今一級程度を進むると云ふことは年々私は其思考を齎し來つて今尙ほ止まぬのでございます、又諸君に於ても此事は矢張り御考へなされて居るに相違ないと思ひます、併し未だ其論が十分に世の中に唱へらるゝまでに至らぬのは蓋し私の精神が足らぬのであらうか、又滿場諸君の御盡力も其點に就ては満足と申されぬかと思ひます。

海外の事は甚だ耳遠い私でございまして外國語は解されませぬが、近頃承る所では此商業教育に就て獨

せうが、歸する所三十年以來教育と云ふものが商業の位置を進めたから商賣に對して此名譽を表したと云ふものである、其商業は今日完全であるか、商業を進むると云ふのは何が原因であるか、即ち教育である、其教育は満足であるかと考へて見ると前途甚だ任重く道遠きこと、言はねばならぬ、故に辱ないで陳謝すると同時に不足と云ふ觀念を申述べるのである、是は祝賀會に對しては少し言葉が穩當でないかも知れませぬけれども、諸君と共に且つ論じ且つ議して完全の域に至らしめたいのでございます、而して此言は私が衷情より發するのでありますから諸君にも左様に御聽取りを願ひたい、已往を回顧すると共に未來に望むことを申述べて御禮の言葉に換へましたのでございます(拍手)

例に由て議論明折風采清雅老いて益々壯なること翁の如きは蓋し慰しとす思ふに實業界の前途尙甚だ遠なり余輩は我が高等商業學校が翁の如き商議員を有するを榮とし茲に滿腔の赤誠を捧げて翁の還曆と

逸の進みは實に非常であり其教育の進みから又實業をも進ませて居る、西洋は勿論東洋にまでも段々逸商人が進んで來るからして今日は英吉利なども商業に對する教育を從來の儘にしては置かれぬ、今一步進めて行くやうに致さねばならぬと云ふことを大いに研究しつつあると云ふことを聞きました、如何なる原因から何等の人が其論を唱へ、其事が實着であるか、其論の出た根據は十分調べませぬから今茲に申述べることは出来ませぬが、決して漠然たる風評ではないやうに考へます、商業を以て世界に雄飛して居る英吉利に於て尙ほ然り、况や極く幼稚千萬なる商業教育の日本に於てをや、殊に日本の商賣に對しては政界上からしても今一步強みを興へることが私は甚だ必要な時機であらうと思ひます

私が今日存じ寄らず此席に罷出まして斯様に教育あり學問ある多數の諸君が相集つて祝賀會を開くの名譽を荷ふと云ふことも前に申しました通り宿昔商業教育を必要とせし微志が其縁を爲したではございませぬ

叙爵とを祝すると同時に將來益健全にして力を實業界の爲めに盡され併せて商業教育の上に其抱負を實行せらるゝの時期の長からむことを切望して止まざるなり式終りて翁を始め會員一同へは別室に於て茶菓の饗あり又會友諸氏へも茶菓を配附し一同退散せしは午后五時にして實に近來の一大盛會なりき

●神戸支部報告(六月廿三日發信)

一入會

飯野俊一君 東京より來神、三上商店へ勤務
馬詰次男君 四日市商業學校より神戸商業學校へ

轉任

中井秀彌君 東京より來神、服部商行へ勤務
茂木英雄君 久留米より來神、神戸商業學校教諭

拜命

土屋豊吉君 大坂より來神、日本火災保險株式會社神戸支店へ

一退會